

研究の構想

山形市立第十中学校 研究推進委員会 2011

- この研究を通して、私達の「授業改善」がねらいにある。

＜学校教育目標の実現＞

『愛と創造』いのち輝く 人間の育成

◎結果として、「思考力や判断力・表現力等」の力が、生徒に身につく（高まる）
～主体的な学びの成立を目指す～

実証・ゴール



言語活動の充実

＝各教科を貫く重要な改善の視点である

＜視点2：言語活動を充実させるための具体的な手立てとは＞

- ねらった力をつけるのに、適した言語活動になっているか
(授業の仕掛けの工夫)
- ① 「生徒が主体的に学ぶ」授業の工夫
- ② 「生徒同士のかかわり合いがある」授業の工夫

実践・検証

＜視点1：生徒につけたい力とは＞

- 「思考力や判断力・表現力等」を育むための言語活動ととらえる
※教科でつけたい力が、「思考力や判断力・表現力等」のどの力へとつながるのかを、意識して授業を仕組む（教科における言語活動整理表の作成）

＜研究のポイント＞

思考力や判断力、表現力等は、習得した知識や技能を活用して、よく考え、しっかり判断した事からを、言語活動を通して、表現するという一連の学びのプロセスによって育成されると考えられる。

理論立て

教科でつけたい力を明確にする

「習得・活用・探究」の視点で身につけたい力を考えてみる

※ここが大前提にある